

ヒル女史小傳

菊池ふじの譯

「アメリカンチャイルドフッド」九月號より

バテイ、スミス、ヒルは八歳になつた時、自分は大人になつたら子供の爲に働かうと、心の中に誓ひました。彼女は、棄兒養育院を設けて、棄兒達に幸福な幼年時代を過させてやり度いと思ひました。今にして思へば結局この念願がヒル女史の一生涯の運命となつたわけです。今日の幼児教育



界竝にアメリカに於て發達した近代學齡前教育運動の團體及びコロンビヤ大學の師範大學内の兒童

云ふことであります。

ニューヨークにある女史の事務室からは、廣々

發展協會——是等はヒル女史の若い時代の夢の實等より、最も敬愛されて居るヒル女史の大なる願ひは、幼児改善運動を續けながらよくその結果を観察し、この運動が幼児の改善上にもたらず確固たる効果を、責任を以つて證明し得るためには、もう百年ばかりの日月が欲しいものである、と

とした緑のコロンビヤ廣場が見渡され、壁や、机等には、子供の氣持を表現して居る様な繪が掛けられてありますが、こゝで椅子に凭りながらヒル女史は、自分の幼時や幼児教育界の中心としての現在の位置に至るまでの長い廣い過去に就て語りました。

女史は、ケンタッキ州のルイズヴィル地方に生れ、二人の男の子と四人の女の子の六人の兄弟姉妹でありました。女史の幼年時代は至つて平和で、困難も束縛もありませんでした。女史は特にこの事を強く云つて居ります。父のヒル博士は、長老教會派の牧師でありましたので、當時起つた南北戦争に従軍する資格がありませんでした。併しどうかしてその復興時代へ何等かの貢獻を致し度いものだと考へた末、ケンタッキ州のルイズヴィル地方の南部の娘達の爲に、自費で大學を設立いたしました。その當時に於てさへもヒル博士

は婦人の高等教育は必要であると考へて居ました。博士は、充實した生活、自由な生活、有益な生活をするためには女子も亦男子と同様に職業の準備をすべきであると考へました。それ故に博士は自分の家庭に於ても女の子は男の子と同様に社會の仕事にたづさわれる様にと云ふ理想を以つて育てたのであります。

ヒル夫人も亦、吾が子の教育に就いては夫君と同じ様に進んだ理想をもつて居りました。暫くの間、夫人は大學寄宿舎の舎監をいたして居りましたが、後になつてこの職務を持つて居る事は、自分と子供との生活を妨げる事が多いと云ふ事を悟りました。夫人は其當時の風習の様に、子供達の世話を子守女に一任する様な事は決して致しませんでした。夫人は結婚前、父の教へに習つて奴隸達に読み書きを教へました。極く幼少の時に両親を喪つた事と、其後、凝り固まつてる、人のいゝ

併し嚴格過ぎる母方の叔父の家庭で受けた抑制は、吾が子の教育方針を決めてしまひました。この家庭の子供等は何よりも先づ第一に、責任感が強くあり、役に立ち得ると同時に幸福にされねばなりません。次に其時代は、訓練的價値を重んじた爲に、世の中の面白い事、楽しい事等を犠牲にする習慣であつたのですが、この家庭では、こゝろいふ事は許されませんでした。半世紀も昔に既にこの母は「遊び」の心理學及び哲學を實際に適用出来るさうな説として認めて居り、子供達の教育に當つては健全な自由な行動と思考を持てる子供にしようをそれを應用して見ました。ヒル女史の今日かち得た成功の大半は、實にこの母に負ふて居るのでございます。

快活で自由でしごやかで、幸福な心に輝いてゐるこの若い南方の娘ヒルは、十八歳になつた時自分の周圍を見廻して、幼い子供等が大人の欲求の

形にあてはめられて居るのを見ました。訓練、不活動、機械的學習、是等は當時の學校のスローガン(標語)でありました。子供等はじつとして居て活動したり物を云つたりする様子は見られません。南北戦争のもたらした種々の困難は南方にも及び、その結果榮養不良が續出し少年労働者の不幸となり幼児の死亡率が高まつてまゐりました。こんな状態が、ミス、ヒルの心に深く印象づけられたのであります。併し丁度好都合にも、幼稚園並に低學年の爲の立派な教員養成所がアンナ、ブライアンに依つてルイズヴィール地方に開かれました。それは丁度、ミス、ヒルがルイズヴィール大學を卒業して、子供を救ひ、保護し、子供の幸福のために働き度いと云ふ一生の方針を決定する問題に直面して居た頃でありました。茲に愈々ミス、ヒルの念願が到達する機會がまゐつたのであります。音楽、手工、お話、遊戯等が、昔

流の形式的教育方法に代らねばならなくなつたのであります。

ヒル女史は此所の幼稚園に新たに練習學級を作り、自らその保姆となりましたが、間もなく實際訓練に就ては他に及ぶ者ない立派な保姆となりました。處で此の南方の娘ヒルはこれ位の所で満足しては居ませんでした。即ち間もなく女史は、女史の持論たる自由説を幼兒教育に應用することを先生と共に實驗して見て、遙かに其先生を凌ぐ結果になつたのです。ヒル女史は、當時どこの幼稚園でも備品となつて居た小つげな積木をば、この次には斯ういふ風に組立なさいと順序を追ふてさせる所謂「因果的連鎖法」でなしに、子供達の思ひのまゝに組立てさせ、後年作業に於ても遊戲に於ても所謂「プロジェクト」式と稱せらるゝ方法を子供達に授けたのでした。子供達に道路だけの卓子の厩小舎だの拵へ方を教へることの巧拙が、

保姆の技倆を批判する標準となる程根本的に必要なものであつたらうかと云ふ事は、今日の我々には殆んど信じられないことです。併し實狀は正に斯くの通りであつたのであります。幼兒達に、積木、粘土、綺麗な色紙、色鉛筆などの材料を興へて、思ひのまゝに「自己」を表現させ様とする女史の意圖は、やがて彼女の町以外の幼稚園、否、世界の幼稚園界に、その責々たる名聲を博せしむる因を成したのであります。ところで此の頃女史は、或人の訪問を受けました。その人は女史の教育上の實驗を參觀しに遙々シカゴから來たのでした。

この參觀者こそ當時の教育大指導者カーヌル、フランシス、パーカーだつたのです。ヒル女史が自分の幼稚園で幼兒達に實驗して居た事をば、パーカー女史は、シカゴの米國最初の模範學校で少し年長の子供達に施してゐたのです。即ちヒル女

史もバーカー女史も、子供の内にある「活動せんとする衝動」は教育上に利用すべき一項目であり、又學校の任務として是非容れる必要があるものと云ふ事を信じもし、又教へても居たのでした。ヒル女史と、アンナ、ブライアンとは、當時の大心理學者の一人たるマサチューセツ州、ウースタアのスタンレー、ホール氏の激勵と協力に援けられて、更らに別な革新的な新説を主唱、提出しました。以上の三人は當時、ウキリアム、バーンハム博士と共に、母親と教師との兩者のみで、子供に最も完全な普遍的な發達を遂げしむる事は不可能だと云ふ説を斯界に提出しました。是等の人は子供とは一の複合的な有機體であること云ふ事を主張し、又是等の有機體、即ち一の「完體たる」子供は、單に教師のみならず、醫師、榮養學者、社會勞働者、心理學者、精神衛生學者並びに藝術家などの、最善の思案と注意に俟つものがあるこ

とを主張したのであります。子供が語學を覺えたことの程度が「マック、ガフィー」を讀み返した回数に依つて計られた當時、又健康調査が學校に於て未だ行はれなかつた當時、又、薄い厚紙に輪廓を畫きその下繪に針で孔をあけたり、それを絲で縫つたりする事位が幼稚園兒の藝術的表現の一訓練であつた當時にあつては、ヒル女史等の以上の主張は殆んど異端説も全然であつたのであります。

一八九三年シカゴに開催された世界博覽會は、正に擡頭せんとするアメリカの象徴でした。即ちアメリカ人が最早一國民として獨歩出來る事の證明であつたのです。時にヒル女史は未だ妙齡であつたにも拘らず、年齢以上に聰明でありましたので、シカゴでは無論の事、南方一帯に眞の使命を帯てる保姆としてその令名を知らるゝ様になりました。其後女史は教育會館で自己の實際研究の結

果を發表しました。其れに依りますと、幼児と云ふものは、若し自由に自分達の考を立案し、まごめ、そして之を表現する事が出来る様な状態に置かれるならば、創造的な作業を製作し得るものであるといふ諸例を示したのでございます。此の「自由」は幼稚園運動の所謂先覺者達に依つてやかましく批判されたのでありますが、この先覺者達こそ、フレーベルの方法だけは把握してゐなければ、その最も重要な使命、即ち「吾々は幼児の先導することゝ隨はねばならぬ」と云ふフレーベルの教育精神を眞に會得して居らなかつた人々なのでした。往年の獨逸神祕論者たるフレーベルの此の教育精神こそ、今日の全初等教育體系に普ねく滲透し、又之を教化して居るのであります。ヒル女史は、始めて教職に就いた日から、幼稚園の積木、棒切れ、嵌木細工、刺繡針等を超越して、宛ら豊饒な土壤に蒔かれそして慈しみ育てられた

種子の如くに幼児が成長し、爛漫と花咲く現今の幼稚園の保育室——生彩あり。色彩あり、活氣あり、朗かな歌聲のある——を見越して居たのであります。

ヒル女史は多年彼女の進歩的理論を攻撃する批評、反駁に對し、如何にして之を論破したかど問はれた時、女史の答は簡單でありました。即ち「私が私自身と私の協力者との爲めに作つた標語は「汝の反對者及び過去の考へ方と争闘する勿れ。汝の信念、汝の努力、全てを盡して唯、之を現在及び將來に注げ」と云ふのであります」。

此の樂觀的に前途を凝視する、と云つた様なヒル女史の態度こそは、女史の一生涯の特質であつたのであります。女史が、この見事に功を奏した保育法を創めてから今年までに四十三年の歲月が流れました。過ぎ去つた一九〇〇年頃の教育界に於て女史の仕事が批評を惹起して以來、女史は今

日に至るも孜々、たゆみなく進歩を續けて居ります。女史は一九〇五年以來、コロムビア大學師範大學部の教授となつて居ります。尙ほ此の國際的に著名な教育中心地たるコロムビア大學に在つては、教授たる事の權威を完全に維持するため婦人等の教授數は極めて少數に限定されてあります。

昨年(一九三〇年)の秋、同大學が創立一七五周年記念祭——同大學独自の立場に榮譽を與ふるところの——を舉行した際、ヒル教授は名譽學位を授與されました。尙ほ此際に唯一人の婦人が同じ學位を授與せられて居ります。

女史の洞察力はフレーベルの哲學に徒らに追從する事よりも寧ろ解釋を誤らしめませんでした。女史は同哲學の特性を述べて『フレーベルの傳記を讀んで見ると、彼は自己の教育案を完全なものとは考へてゐなかつた。彼は母親や教師達に絶間なく材料を送り、之を實驗して見て批判をして呉

れるやうに奨めてゐた。彼の後繼者達は斯かる新鮮な、冒險的な精神をうけついでにはゐなかつた。彼の未完成的な實驗は、彼等後繼者からは徒らに禮讚の的として取扱はれてゐた。彼等の幼稚園運動の目的は教育の進歩的な計畫とはならないで、種々の制度となつてしまつた』と云つて居ります。

ヒル女史は以上の如き聰明な見方を以て、我が急進的教育論者達——嘗ては嘲笑せられ、今日は尊崇せられて居る哲學者達——の學説を自らも確信し、又自らその學説の一半を分擔して居るのであります。元來ヒル女史は、カールパーカーと共に、シカゴに在る有名なクック州の師範學校に學んだのでした。女史は、ジョン、デューキーから「幼兒教育に於ける指導的原理は、標準化された實行ではなくて、創造的思考でなければならぬ」と云ふ事を教へられました。女史は又スタンレー、ホルルの許に研究して、當時の新兒童研究及び課程

變更の必要、融通の利く設備、材料の必要などを知る様になりました。女史は更らにウキリアム、ゼームス博士の許に研究しました。女史は、ホール

博士の一門下生の創めた、他に比類なき獨特な遊戯學校のある事を聞き及びました。そのホール博士の門下生と云ふのは、遊戯活動といふものが心理學的に重要なことを認めて、ホール博士の玩具心理に就ての學説を敷衍した人なものでした。此の遊戯指導者はルーサー、ギューリック博士と謂つて、一八九八年にヒル女史と共に研究して、幼稚園の大まかな遊戯材料の問題——特に大型の積木——を解決した人でした。幼兒教育に關する凡ゆる斯かる實驗は、今日では動かすべからざる事實であるが、當初ヒル女史を除く他の教師達は、心の中に込み込んでゐる傳統に出發して居たため、誤謬以前の何物をも殆んど解さぬのでありました。

女史は、幼兒期の見方を、今までの傳統的な見方や方法から離脱する事に費した昔の努力に就て、次の様に云つて居ります。

『私が最初、自由に材料を選択させ、又それを自由に用ひさせ様と試みた時、その新しい試みの場所を、學校とも幼稚園とも思ひきつて云はずに、論争を避けるために、「遊び部屋」と呼びました。私共は各々の子供についてその結果を記録し漸次、自由とは不秩序を意味して居るのではないと云ふ事を、證明いたしました。事實「遊び部屋」や「遊び場」で四年間この試みを實驗した後、其結果が認められてか、ホレス、マン幼稚園から招きを受けました。そしてその小さい組の子供等に之と同じ試みをして欲しいと頼まれました。この頃まで私共はジョン、デューキーや、後にウィリアム、キルバトリックと云ふ様な人達から激勵を受けて居りました。是等の人達や、他の多くの人々

は、私共の試みを見に人を寄こし、私共の實驗に證明を與へて呉れました。併し過去のどの場面を顧みても實に激しい闘ひを経て來たものです。」

子供等に就て行つたこの測定や、創造的努力に就ての是等記録は、學校に於ける測定計畫の導火線となりまして。最近十年間に、この計畫は一般に廣く適用されるまでに進んだのであります。

併し此處で再びヒル女史は自身をたしなめて居ります。即ち女史は當時の教育上の測定運動を喜んで自ら試みもし、又その運動を普及せしめ様と協力して居りながらも、メンタルテストは失敗し易いものであると云ふ事を信じてゐました。そして曰く『私は生徒達に時々云ふのですが「能ふ限り何事でも測定してごらんなさい、併し測定出來ないからと云ふ單なる理由でこれをあきらめてしまつてはいけない」と。私共は新しい道具を扱つて見るだけであります。私共の信條が見出せない價值

が尙まだ澤山あります』と云つて居ります。

先頃、米國に開かれました第四回世界教育聯盟會議に不肖私が日本代表として參列の光榮を得ましたが、幸に各位の御支援によつて聊か幼児教育に關する日常の卑見を同會議に開陳することができましたのは誠に感謝に堪へぬ所であります。其後米國各地竝に歐洲各國の幼児教育の狀態を視察し、本日靖國丸で歸朝いたしました。

出先及留守宅に對し、種々懇なるお言葉を賜りました皆様に、茲に不取敢お禮を申し上げ、併て右歸朝の御挨拶を申し述べます。

昭和六年十一月一日

フレイベル館

高市次郎